



(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和 1 年 6 月 25 日

京都府知事 様

提出者
住 所 京都市下京区東堀川通り四条下ル
四條堀川町272-6
氏 名 理事長 中野博美
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 075-343-0751

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	医療法人 啓信会 京都きづ川病院
事業場の所在地	城陽市平川西六反26-1
計画期間	平成30年4月1日～令和 1 年3月31日

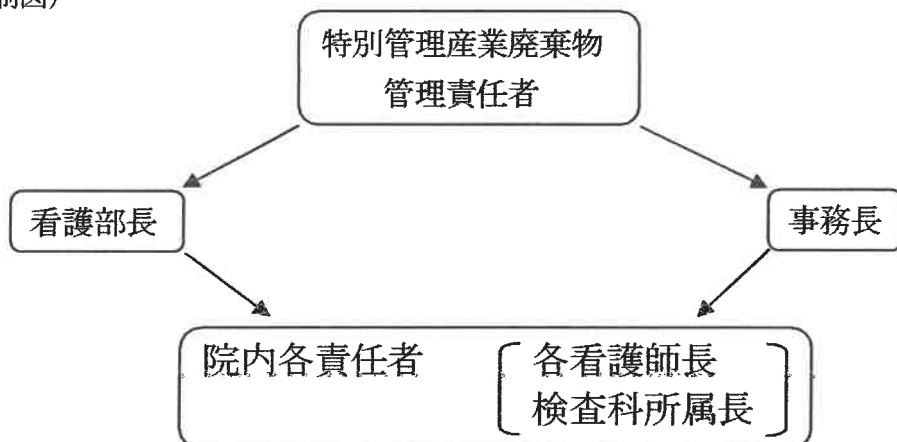
当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	病院
② 事業の規模	病床数 313床
③ 従業員数	650人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	発生⇒回収⇒収集⇒処分(焼却)⇒埋め立て

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 (平成 30年度)実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	強廃酸
	排 出 量	58.06t	0t
	(これまでに実施した取組) 使用済み紙おむつについて、非感染性のもは一般廃棄物として処理を行いました。排出品目の増加により排出増となり、目標値には届きませんでした。 強廃酸については、平成30年度より使用しておりません。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	強廃酸
	排 出 量	54.00t	0t
	(今後実施する予定の取組) 医療現場での感染対応の観点からディスポ化(使い捨て)に取り組んでおります。 しかし排出量減少の為に布オムツから紙オムツへの移行を行うことにより排出量の減少傾向にありましたが、新たにディスポ化に伴う排出が増加しているため、新たに削減の方法を検討中である。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 鋭利なもの、又は、固形物はプラスチック容器に投入 紙おむつ (感染・非感染問わず)・布などはダンボール容器に投入 現在、医療材料の使い捨て化へ取り組み中。
② 計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 非感染性紙おむつは一般廃棄物として分別し、医療材料の使い捨て化が進行している中での排出量の削減に取り組んでいく

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度（平成 30年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度（平成 30年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

① 現状	【前年度（平成 30年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度（平成 30年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	強廃酸
	全処理委託量	58.06t	0t
	優良認定処理業者への処理委託量	0t	0t
	再生利用業者への処理委託量	0t	0t
	認定熱回収業者への処理委託量	0t	0t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0t	0t
	(これまでに実施した取組) 使用済み紙おむつについて、非感染性のものは一般廃棄物として処理を行っております。院内感染対策として、医療現場での使い捨て化が進んでおり、その影響で排出量増となっております。		

② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	感染性廃棄物	強廃酸
	全処理委託量	54.00t	0t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0t	0t
	再生利用業者への 処理委託量	0t	0t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0t	0t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0t	0t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>医療現場での感染対応の観点からディスポ化(使い捨て)に取り組んでおります。</p> <p>排出量減少の為に布オムツから紙オムツへの移行を行い、排出量の減少が進んでおりましたが、ディスポ化により今後の廃棄物の排出については、若干の増加しております。</p> <p>強廃酸については、平成30年度より使用しておりません。</p>			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 8 ※欄は記入しないこと。